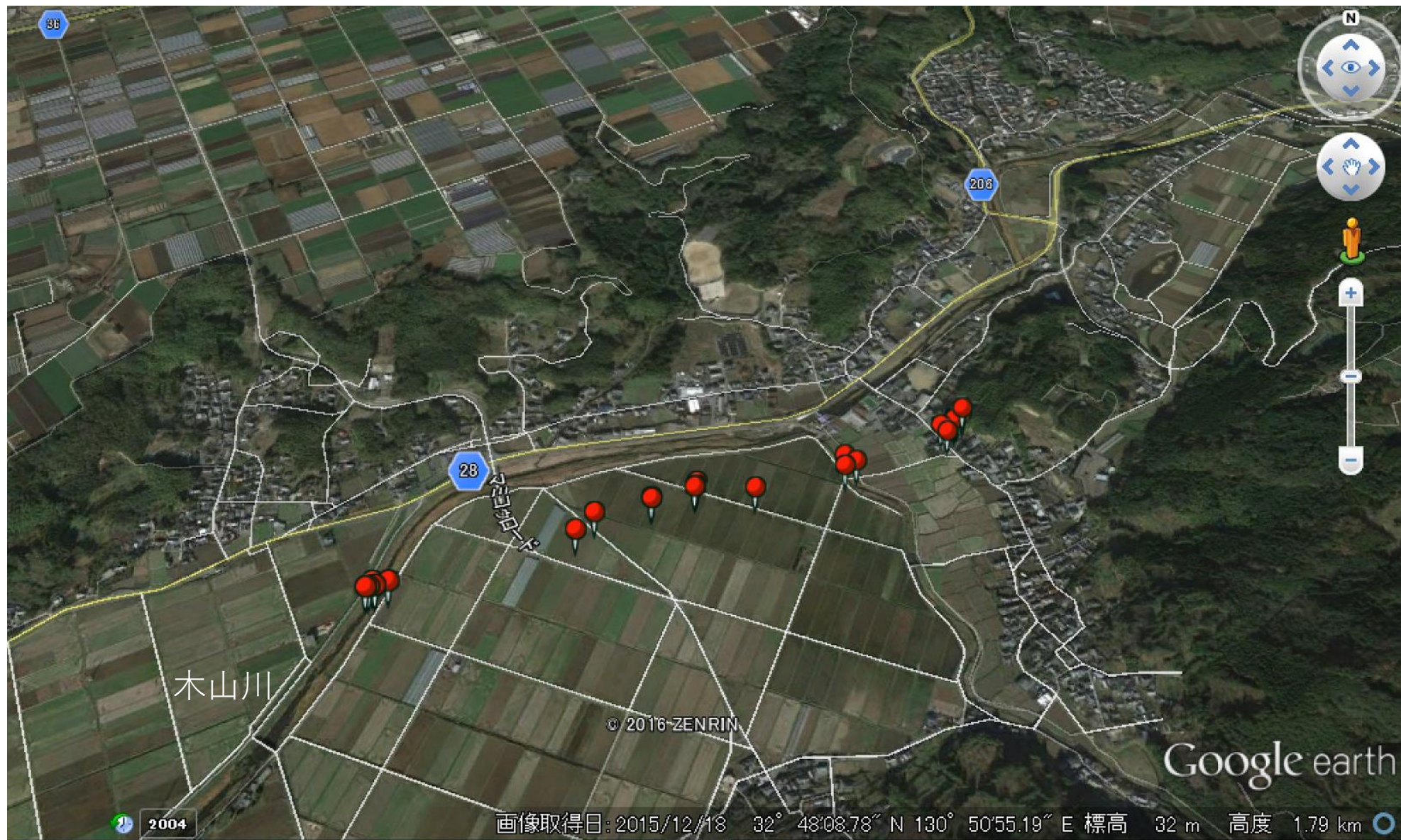


平成28年（2016年）熊本地震調査 緊急報告

調査日：2016年4月19日～20日

後藤健介（大阪教育大学・准教授）
吉武貴志（有限会社サンワ設計）
後藤恵之輔（長崎大学・名誉教授）

* この報告の写真については一切の転載・複製を不許可とする



現地調査によって確認できた地表面に現れた地震断層（背景図：Google Earthより作図）

赤い地点上が観測できた箇所。熊本県上益城郡益城町。総延長約1.06km。



地表に現れた地震断層の西端付近





右横ずれ断層であることが分かるあぜ道のずれ
ずれ手前側が東方（写真左側）へ移動



地震断層を横切るコンクリート農道（簡易舗装）

活断層のずれを受けてコンクリート表層が砂利路盤から分離し、東側（写真左側）へ移動。
その結果、農道は車の位置辺りから手前へ若干カーブ状に変形（右写真）。
左写真は、ずれたコンクリート表層が土手上にせり出している様子（左写真）。



圃場を横切る地震断層のドローン空撮画像（撮影：吉武貴志）

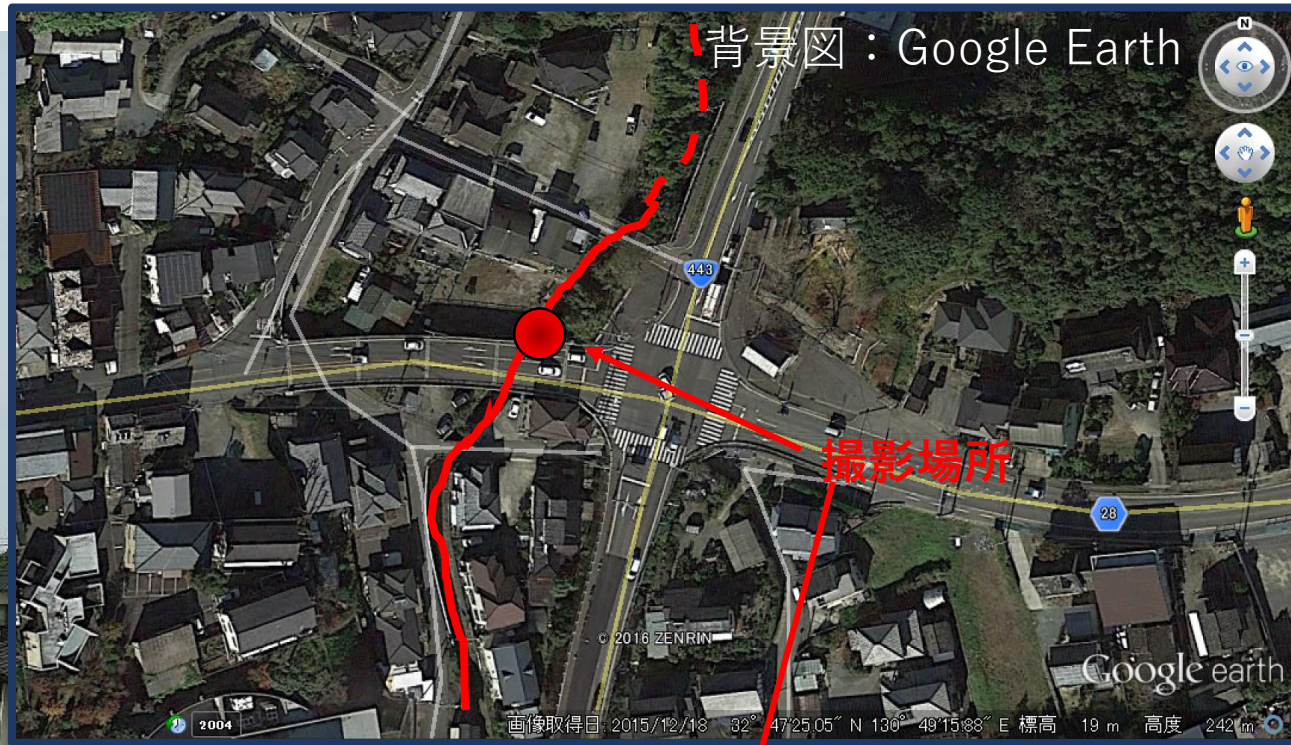


圃場を横切る地震断層のドローン空撮画像（撮影：吉武貴志）



熊本市東区と益城町の境目辺り（28号線）

この辺りから急に被害の多さが目立つようになった。



甚大な被害が集中した益城町低地（旧河道上の住宅地と考えられる）

赤の実線と点線は現河道。



甚大な被害が集中した益城町低地（承前）



山裾住宅街を走り抜けた地震断層

地震断層が電柱下あたりからアスファルト道路を横断し、東側（写真左側）へ走った結果、写真左側の住宅のブロック塀が慣性の法則により、反対向き（写真右向き）の地震力によって川中へ倒壊・落下。



活断層直近の倒壊家屋

全壊家屋の多さが目立つ。古い住家に全壊が多いようだが、筋交いの有無が被害を分けたのではないか？



地表面に現れた地震断層から約100mしか離れていない小学校・保育所

小学校（左写真）は避難所に指定されていたが、体育館等の被害が大きかったためか、避難所としては使用されていなかった。